

つきたい力

- ・自ら考える思考力
- ・人を大切にする考察力
- ・伝え合うコミュニケーション能力

取組みの概要・ポイント

- ・低学年でも本が選びやすい図書館づくり、委員会やクラブの活用
- ・図書とタブレットを併用した効果的な授業づくり
- ・情報活用能力の育成と、情報センターとしての機能の向上



本年度
の取組
み資料

具体的な取組みの内容 本に親しむ場づくり

低学年でも本を選びやすい工夫



- ・本を精選し、絵本は作者順ではなく、題名順で配架した。
- ・絵本には五十音ごとに色シールを貼り、低学年でも区別がつくようにした。
- ・絵本以外の文学作品も、読みやすい本の背表紙に色シールを貼り、視覚的に分かりやすいように工夫した。
- ・配架する本を精選し、空きスペースにはどんどん本を面置きしていった。

委員会・クラブでの活用



- ・図書委員会の児童とともに様々な企画を提案、運営していった。
- ・本を使ったクイズを給食の時間に出したり、読み聞かせを行ったりした。
- ・たくさん本を読んだ児童には、マンガイラストクラブの児童が作ったしおりをプレゼントした。

公共図書館の本と学習や学級文庫での活用



- ・公共図書館の団体貸し出しを利用して、学習に活用した。
- ・担任による計画から、学校司書が団体貸し出しを行うまでの流れを一括化し、スムーズに活用できるようにした。
- ・学習だけではなく、学級文庫にも活用し、普段の読書にも活用することができた。
- ・公共図書館にある学習漫画も積極的に活用した。

具体的な取組みの内容 学校図書館を活用した授業づくり

授業で学んだことの発展学習として活用



- ・単元の学習の発展学習として、図書を活用した。
- ・低学年ではクイズづくり、高学年ではビブリオバトルなど、さまざまな形態で学習に取り組んだ。
- ・国語科だけではなく、社会科で東大阪市の産業について調べるなど、全ての教科での活用を行った。

読解力、情報活用能力の育成のための図書の時間の活用



- ・図書の時間（国語）を活用し、情報活用能力の育成に取り組んだ。
- ・低学年では本探して分類記号について学び、中学年では、辞書を用いた「言葉探し」で素早く見つける練習をしたり、索引の使い方を学んだ。
- ・百科事典も適時活用し、習熟を図った。

情報センターの機能の向上



- ・図書とタブレットを併用し、情報センターとしての機能を充実させた。
- ・図書資料、百科事典、タブレットを併用し、個別最適な学びの実現に向けて取り組んだ。
- ・中学年では、学校図書館をプロデュースと題して、学校図書館の宣伝を児童が自ら行った。

取組みを通しての子どもの変容

・貸出冊数の大幅な増加が見られた。5992冊(R3)→8041冊(R4)→7958冊(R5 11月) また、高学年では1090冊(R3)→1295冊(R4)→2681冊(R5 11月)
 ・「読書は好きですか。」市独自のアンケートの肯定的回答率では、79%(R4)→86%(R5)「どれくらい学校の図書館に行って本を読んだり調べたりしますか。」36%(R4)→57%(R5)と増加傾向が見られた。アンケート結果の通り、学校図書館で自主的に学習する児童の姿が良く見られた。また、休み時間に友だち同士で学校図書館にきて、一緒に本を読む様子が多く見られた。